

きのと小だより

燦

合言葉：みんなで力を合わせて、子どもの方をしっかりと向いて、
大事に大事に育てましょう。 平成27年5月1日 2号

約束事を守る力

校長 金子 智

子どもたちが、広い広い青空の下、暖かい陽射し、爽やかな風が心地よいグラウンドで、本気になってリレーの練習をしています。

入学して1ヶ月の1年生、少しずつ 少しずつ 学校生活にも慣れてきました。

○ 1年生の子どもたちが、4列になって、外履きを持って廊下を歩いてきました。畑の石拾いに向かうのでした。授業中は廊下でおしゃべりしないというルールをしっかりと守って歩いてきました。先頭を歩いてきた子が、私とすれ違いざま、声を殺して、小さく手をふって

「こう ちょう せんせい。」と一言。

私も声を殺して、手をふって

「は あ い。」と一言。

「校長先生、私たちちゃんと約束守っているでしょ。えらいでしょ。」そう言われたようでした。

休み時間、廊下から明るく弾んだ、先生の声が聞こえてきました

「おっ、1年生、廊下を走らないで静かに歩いて偉い。1年生も学校の約束ちゃんと守れている。偉いぞ、偉いぞ。合格。なんとすばらしい。」

褒められて得意げな顔をしている1年生が目に見えました。嬉しいな、嬉しいなと小躍りしている姿が見えるようでした。

「靴はつま先の方を奥にして靴箱に入れます。」

「算数セットは、自分の名前が見えるようにして、一番下のロッカーに入れます。」

「ハサミは引き出しの右に置きます。」

一つ一つそう教えて、一人一人そうできているかどうか確かめて、できていれば「それでいいんだよ。」と声がけし、できていなければ、直させて「今度はこうするのですよ。」と教えて、そうできるようにしています。

○ 私たち大人から見れば、靴の入れ方にしろ、ロッカーにしろ、引き出しの使い方にしろ、それは自由でいいことです。しかし子どもたちにとっては「約束事を守る力」を高める大事な大事な訓練の場面です。約束事をキチンと守ることができるその力が、学ぶ力に、努力できる力に、できることを増やす力に姿を変えます。かけがえのない大事な大事な人生を、よく生きる力に姿を変えます。

「約束事を守る力」は「勤勉性」の内容です。

小学校の時代の子どもの発達課題はこの勤勉性の獲得です。「ぼくは努力した」という思いが自分をよしとします。「私は努力した」という思いが素直さを増します。これらは全部、思春期の発達課題である「自分という人間の理解」にあたり、「自分をよしとして自分の輪郭を描く」ことを実現します。これは人生をよく生きることと同意です。

4月27日に避難訓練を行いました。お父さんお母さん、おじいさんおばあさん、地域の皆様、子どもたちは避難訓練の約束事を守り、整然と秩序を保って避難できました。とっても立派でした。もちろん1年生もです。

杵差岳の雪形「鯛頭」が姿を見せ始めました。